

平成27年度 第2回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 平成27年8月26日（水）午前10時00分～午前11時55分
2. 場 所 渋谷学習センター310講習室
3. 出席状況 委 員9名（深澤会長、小林委員、坂本委員、直井委員、服部委員、伏見委員、星野委員、吉川委員、米屋委員）
事務局4名（文化振興課長、文化振興担当3名）
4. 傍聴人 なし
5. 議 題
 - 1 開会
 - 2 審議・検討事項
 - (1) 大和市文化芸術顕彰について
 - 3 意見交換
 - (1) アートサポーターについて
 - 4 その他
 - 5 閉会
6. 会議資料
 - 平成27年度 大和市文化芸術顕彰候補者（案）について
 - 大和市に望まれるアートサポーター組織について（第1回文芸審意見まとめ）
 - アートサポーター組織の事例について

【会議要旨】

- 1 開会
 - 文化振興課長より挨拶
- 2 審議・検討事項
 - (1) 大和市文化芸術顕彰について
 - 市から、「平成27年度 大和市文化芸術顕彰候補者（案）について」について説明。
— 大和市情報公開条例第7条第3号に該当するため非公開 —
- 3 意見交換
 - (1) アートサポーターについて
 - 市から、「大和市に望まれるアートサポーター組織について（第1回文芸審意見まとめ）」、「アートサポーター組織の事例について」について説明。
会 長：事例のパーティオウエーブは、開館前から準備を始めている。大和市は、どの位の時期から準備を始めるかなどのスケジュールについてどのように考えているのか。
事務局：開館前の組織設立が理想ではあるが、しっかりと準備が整わないで進め、頓挫することは避けるべきと感じている。平成28年度は開館記念事業が中心に行われる予定なので、平成29年度位からの活動開始になるのではと考えている。
委 員：どこが主体になり、関わりを持っていくかが重要である。指定管理者に引き継ぐにしても、開館前までに基本的な方向性や仕組みは、市の方で明確に示しておく必要があると思う。

- 事務局：市民サポーターについての指定管理者との協議は今後行う予定であるので、それまでに市の考えを明らかにできるようにしていきたいと考えている。
- 委員：開館が来年なのにもかかわらず、市民の意識はかなり低いように感じている。アートサポーターを若い世代の方に担ってもらいたいという思いはあるが、実際、市内に気持ちが向いている若い世代の方は少ないように感じる。少しでも早く広報していくべきではないか。
- 会長：市民の意識を喚起するために、アートサポーター設立に向けた取り組みを早い段階で実施することが必要と感じる。
- 委員：「若い世代」だけでなく、ベテランの方をうまく巻き込み、両輪で推進していく方がよいのではないか。
- 委員：パティオウェーブのように、幅広い世代で組織されている方が望ましいのではないか。若い世代の育成については、育成事業などとしてじっくり時間かけて行っていけばよいと考える。友の会のように文化芸術を支援してくれる方々を多く集め、そこで得た会費をベースに若い世代の育成事業費に充てるなどの方策がたてられればよいと感じる。
- 委員：施設の立地や予算規模など知立市と大和市では条件が異なるので、知立市の仕組みをそのままあてはめるのは難しいように思う。ボランティアをマネジメントするのは相当な労力を要する。組織をつくり、フロントスタッフを育成する手間を考えれば、指定管理者に依頼して育成、活躍の場をつくる方が効率よく、質の高いものができるだろう。大和市には、どのような応援が必要なのか、どのようなサポートが必要なのかを大和市の現在の状況を踏まえながら、検討を進める必要があると思う。まずは、ワークショップを開催し、市民を巻き込んだ事例などを基に大和市に必要なサポートの内容を一緒に考え、共有していくこともよい方法だと考える。
- 委員：どのようなサポートが必要かを行政だけで考えるのではなく、市民と一緒に考えていかなければならない。市民に詳細を知ってもらうためにはどうしたらよいか考えることが必要である。
- 委員：指定管理者のノウハウを活かすべきではないか。
- 事務局：指定管理者を公募するうえで、仕様書には市民参画の仕組みづくりについては、市と協力して実施していくこと、という内容になっている。市の意思は指定管理者には伝わっているので、今後、指定管理者とも話をしていきたいと考えている。
- 委員：ボランティアの定義が広すぎるように思う。アートサポーターに求める内容、範囲について、市の考え、コンセプトを明確に示すべきではないか。
- 委員：指定管理者は市の作成した仕様書を基に施設を運営していく。指定管理者制度というものを我々も理解しなくてはならない。営利団体である指定管理者にどこまで役割を担ってもらうかは慎重に考える必要がある。
- 委員：芸術文化ホールだけでなく、施設全体、各施設のボランティアを育成し、組織とするのもよいのではないか。市民は自身の得意分野で活躍できる場を求めていると思う。市が押さえる所は押さえ、市民が自ら考えて主体的に活動できるようになることが望ましい。早い段階で広く市民に投げかけることが意識づくりに繋がっていくのではないかと考える。
- 委員：生涯学習センターや図書館には既にボランティアが多く登録し、実際に活動している。芸術文化ホールは新しい施設なので、現状ボランティア組織はない。審議会で検討するのは、芸術文化ホールに関わるボランティア組織に特化した検討を進めた方がよいのではないかと感じる。開館まで時間があまりない中で、市が注力しなくてはいけないのは、

市民に新施設が開館することの高揚感を伝えることだと思う。

委員：少しでも多くの市民が気軽に新施設へ出入りできるような仕組みづくりが必要ではないか。生活に根付いた親しみの持ちやすいイベントを開催するなど施設に興味、愛着を持ってもらえるような試みが必要と考える。

事務局：新施設への期待感を高めるための方策として、イベントやワークショップを開催するなど、さまざまなものが考えられるが、その他にどのようなものが考えられるかご意見を伺いたい。

委員：指定管理者は開館準備でそこまで手が回らないと思う。開館前にどこまでできるかわからないが、広報の部分で新施設の期待感を高める取り組みはできるのではないかと。具体的には、大学生やシルバー世代による自主的なレポーター組織というものがある。施設やイベントなどが市民の目にはどのように映っているか、今後どのようになっているか、何を取材し、広報媒体などで発信していくというものである。その他には、以前、文化施設の評価が注目された時に「つなぐNPO」が企画実施している市民の評価ツアーが話題を呼んだ。市民は、事前に知らされたチェックポイントを持って施設内を巡り、評価していく。評価結果については、集約し、接客・接客等の面などで改善できる内容のものは採用し、見直していくというものである。また、開館前に行われている事例としては、新施設の概要を説明し、市民が施設にどのようなようになってほしいかなどについて話し合うワークショップがある。

会長：ワークショップを開催する場合、どこが主催になっているのか。

委員：指定管理者制度が導入される前は、市や財団が主催しているケースが多かった。雰囲気づくりや資料の提供などのワークショップデザインを市の職員が行うのは難しい。専門家に依頼し、実施することが望ましいと考える。

会長：他自治体の施設との差別化を図り、大和市ならではの施設となっていくためには、コンセプトが明確になっていることが重要と考える。個人的には、「アートサポーター」が他にはない大和市の個性になるのでは、と考えている。

委員：2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催される。オリンピックはスポーツだけでなく、文化の祭典としても位置づけられており、ロンドンオリンピックの時にも注目された。文化庁は7月にいくつかの観点から自治体、民間団体が行う文化イベントを応援するという内容の基本構想を発表した。内容は、優れたイベントを観ようというものではなく、より多くの幅広い方に文化芸術に関わってもらい、文化を味わってもらおうという行動者率の増加を目指しているものである。

以前は、文化芸術は経済的、時間に余裕がある人が触れるものという社会通念であったが、今では、貧困や移民で困っている方など放っておくと社会から疎外されてしまいそうな方に対し、文化芸術を通して巻き込んでいこうという社会包摂が広がりを見せている。また、人が「育つ」、「学ぶ」というプロセスに文化芸術が良い効果を及ぼすと言われてきている。河口湖にあるステラシアターでは、佐渡裕氏が指揮をするオーケストラのコンサートの前に地元の有志の中高生からなるブラスバンドグループが演奏をするというイベントを実施している。数年前までは、参加者は十数名しか集まっていなかったが、今では、200名を超えるまでになっていた。ここまでの規模になった要因は、子どもたちが、プロの素晴らしい演奏を聞いて「ああいう風になりたい」と刺激を受けられる場であるということと、プロの演奏家が地元の子どものために一生懸命サポートしていることで相乗効果が生まれ、それが蓄積されてきたことにある。

委員：座間のハーモニーホールでは、無料で地元学生の吹奏楽部などに場所を提供するなどの

支援をしているようである。ステラシアターの事例に近い取り組みと感じる。近隣にも市民から支持されている施設は存在すると思うので、研究してみてもよいのではないか。

委員：個人的に、大和市に検討してもらいたいと思うのは、スポーツクラブの文化版で課外活動で伝統文化を学べるクラブを地域が受け皿になってつukれないかというものである。大和市には、伝統文化の活動をされている方が多いと聞いている。芸術文化ホールと文化クラブが上手く結びついていけるようになればと思っている。

事務局：東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムについては、既に手元に情報がきている。これは、来年度以降、全国の自治体で文化イベントを展開するというものである。大和市は、現時点で具体的な実施内容は見えていないが、文化プログラムを企画、実施する人材を集め、それをアートサポーターにつなげていくという視点も一つあるように感じた。

4 その他

○市から、次回の開催日程について説明。

11月末の開催を予定している。後日、改めて日程の調整をすることを報告。

○芸術文化ホールの利用予約窓口開設について

利用予約窓口を10月1日より生涯学習センター内に開設を予定しており、今後、利用説明会の開催も予定していることを報告。

5 閉会